

◆基調講演「千葉常胤と鎌倉時代の千葉の町・村」

講師：保立 道久 氏(東京大学名誉教授)

千葉常胤は源頼朝の挙兵を成功に導いた武士で、『吾妻鏡』には頼朝が常胤を「父」と仰ぐと述べたとあります。これは実際ので、常胤は猜疑心の強い頼朝の下で千葉氏の位置をまもった重々しく慎重な人物でした。

講演では、まずこのことにふれた上で、それを支えたのは平安時代末期から鎌倉時代の千葉の町と村の豊かさと活発さであったことを説明します。町については、当時の都市計画を説明し、「胡蝶」という名の千葉氏に仕えた女性の文書、村については寺山郷(若葉区東寺山町・源町付近)の文書などを取り上げます。



千葉常胤木像
(安西順一作 千葉市立郷土博物館蔵)

◆パネルディスカッション テーマ「千葉氏が生きた中世のまちと人々の暮らし」

コーディネーター：遠山 成一 氏(千葉市立郷土博物館研究員、東金市文化財審議会会長)

パネリスト：古庄 秀樹 氏(佐賀県小城市教育委員会文化課学芸員)

馬淵 和雄 氏(一般社団法人 鎌倉・中世文化研究センター理事)

外山 信司 氏(千葉市立郷土博物館総括主任研究員)

中世の武士といえば、「草深い農村に土着した、質実剛健な在地領主」というイメージで語られ、千葉常胤はその代表とされてきました。しかし、近年の研究成果から鎌倉時代の千葉氏当主や有力な一族は鎌倉に住み、京都に屋敷を構え、北は東北から南は九州までの各地に所領を持って広範に移動する、日本列島規模のネットワークを有する都市的な存在であったことがわかってきました。下総千葉氏の本拠であった千葉、肥前千葉氏の本拠小城(佐賀県)、そして「武家の都」鎌倉の事例から、千葉氏ゆかりのまちと暮らしについて紹介します。



亥鼻城跡出土古瀬戸四耳壺
(千葉市立郷土博物館蔵)



新田遺跡出土瀬戸焼片口鉢
(千葉市埋蔵文化財調査センター蔵)

◆首長フォーラム オンライン会議

千葉氏ゆかりの都市の首長等が集い、交流を深めるとともに、今後の連携等について話し合います。

参加都市(予定)：岩手県一関市、宮城県涌谷町、福島県相馬市、南相馬市、千葉県千葉市、佐倉市、酒々井町、多古町、東庄町、岐阜県郡上市、佐賀県小城市

観覧方法

◆会場で観覧を希望する方(定員100名)

電子申請又は往復はがきでお申し込みください。(応募者多数の場合は抽選)

①電子申請:右記二次元コードまたは、https://s-kantan.jp/city-chiba-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=3192

②往復はがき:郵便番号、住所、電話番号、代表者氏名、同伴者氏名(1名まで)をご記入の上、

〒260-8722 千葉県千葉市中央区千葉港1-1

千葉氏サミット実行委員会事務局(千葉市都市アイデンティティ推進課内)までお送りください。

応募締切:令和3年7月21日(水) はがきの場合は消印有効



電子申請
二次元コード

◆ウェブ配信を視聴

第3回千葉氏サミットHPからリアルタイムでご覧いただけます(申込不要)。

表面二次元コード又は、<https://www.city.chiba.jp/chiba-shi/kanren/summit/summit03.html>

※新型コロナウイルス感染症の影響や社会状況の変化により、予告なく内容を変更する場合があります。